

ほすぴたる

秋号第5号

2004.10

信頼と安心の医療を目指して
～安定的な医師確保にご協力を～



公立豊岡病院組合医療監 兼
公立豊岡病院 病院長
竹内 秀雄

現在、都市部を除き、全国的に医師確保が大きな問題になっています。公立豊岡病院組合（以下当組合）においても、公立豊岡病院では安定した医師確保がなされていますが、他の4病院（日高、出石、梁瀬、和田山の各病院）においては、医師確保が難しいのが現状です。

この様な状況の中で当組合では、但馬で育ち、将来故郷の医療の発展に貢献しようとする学生諸君を対象に、「**公立豊岡病院組合医師修学資金貸与制度**」を発足させました。

制度の詳細は次頁で説明いたしますが、本制度は、但馬の高等学校卒業生を対象に、大学医学部へ進学するための修学資金を貸与し、大学卒業後医師免許を取得した後、直ちに当組合立病院で勤務し、一定の期間勤務すると、修学資金の返還を免除するというものです。当組合の基幹病院である公立豊岡病院は臨床研修指定病院であり、症例数も多く、大学卒業後の臨床研修を安心して行っていただけます。

来春には新病院への新築移転も控えており、



研修医が胃カメラ検査の指導を受ける様子です

本制度の発足にあわせ、在学期間中の定期的な病院見学の実施や卒業後の研修カリキュラムの更なる充実等、研究・学習しやすい環境を整えていきます。

今、私たちは**故郷但馬の医療の発展に貢献しようとする、熱意と郷土愛に溢れた学生諸君を待ち望んでいます**。大学卒業後は、各病院長を中心に、指導医ほか、当組合の職員全員が全面的にバックアップします。ぜひ積極的にこの貸与制度を利用し、郷土の医療に従事する医師になって欲しいと切望します。

※医学部に進学される方や在学中の方をご存知でしたら、この情報を是非お伝えください。

今号の内容

- ・公立豊岡病院組合
医師修学資金貸与制度関連
- ・医局だより
- ・コラム
- ・新任医師紹介、お知らせ
- ・新豊岡病院整備事業

特集

公立豊岡病院組合医師修学資金貸与制度を開始します！

～故郷の医療にあなたの手を～

公立豊岡病院組合では、但馬地区の高等学校卒業生を対象に修学資金貸与制度を発足させました。この制度は、将来組合立病院の医師として故郷但馬の医療の向上に貢献しようとする医師を育成することを目的としています。

●制度の内容●

1 対象者

但馬地区の高等学校を卒業し大学医学部に進学しようとする方、もしくは修学中の方で、大学卒業後、公立豊岡病院で2年間の臨床研修を修了し、医師として組合立病院で勤務する意思のある方。

2 募集人員

各学年3名程度

3 選考

申請書類と面接により決定

4 貸与期間

正規の修学年限内（6年以内）

5 修学資金貸与額

1人当たり総額 10,200,000円（6年間貸与の場合）

★1年生～4年生 月額 125,000円 年額 1,500,000円

★5年生～6年生 月額 175,000円 年額 2,100,000円

6 修学資金の返還免除

貸与学生は大学卒業後、医師国家試験に合格すると公立豊岡病院組合嘱託員として採用します。2年間の臨床研修後、専攻医として勤務していただき、一定期間勤務された場合は修学資金の返還を免除します。

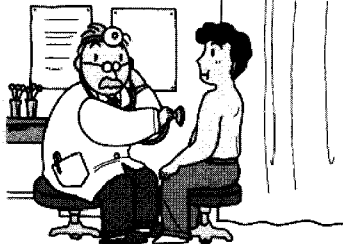
※ 貸与期間と返還免除勤務期間

貸与期間	返還免除の勤務年数
4年未満	4年
4年以上	貸与期間と同じ期間

7 修学資金の返還

次の場合に修学資金の返還を求めます。

- ・修学資金の貸与の決定が取り消された時（医学部中退等）
 - ・医学部課程修了後2年以内に免許を取得できなかった場合
 - ・死亡、心身の故障で医師の業務に従事できない時
 - ・医師免許取得後直ちに公立豊岡病院で臨床研修に従事しなかった場合
- また、返還免除の勤務年数に満たないで退職した場合は、規則に基づき計算した額の貸与金額の返還を求めます。



●平成16年度の募集●

- 1 平成16年度は現在大学在学生在を対象に実施。
- 2 平成16年度の選考は平成16年12月に実施し、修学資金の貸与は平成16年10月にさかのぼり支給。
募集期間及び選考会日程、必要書類等詳細は募集要項をご覧ください。
募集要項は平成16年10月18日（月）から公立豊岡病院組合総務部人事課で配布いたします。
- 3 受付期間：平成16年10月18日（月）から11月30日（火）まで
- 4 平成17年度新入生対象の募集は平成17年3月選考予定。詳細は再度ご案内します。

※お問い合わせ先

公立豊岡病院組合 総務部人事課 電話0796-22-6111 内線250

「フットケア外来」

公立和田山病院 リハビリテーション科

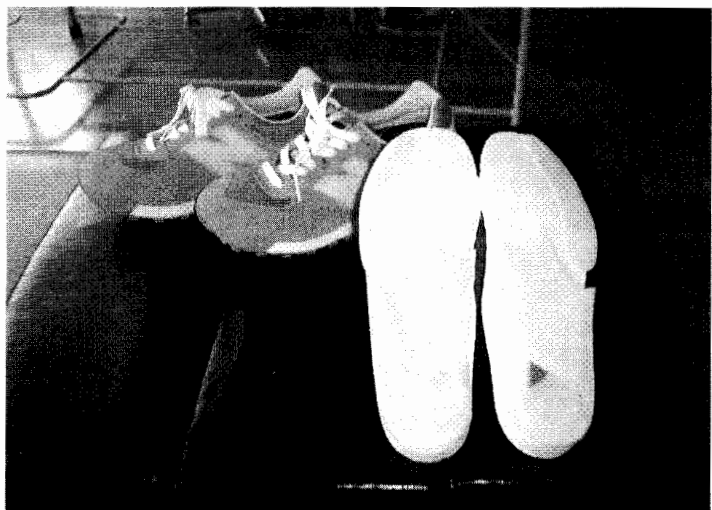
病院からの **お知らせ**

皆さんは自分の足をじっくりと眺めてみたことがおありでしょうか。足は地面との唯一の接触点でありながら、靴下や靴に覆われていることが多く、案外見過ごされているのが現実です。

ではここで一度自分の足を眺めてみてください。知らない間に指が変形していたり、胼胝（たこ）ができていたり、また年齢とともに足の形までが変わってきていることにも気づかれたことでしょうか。

最近では足のトラブルは足の痛みだけにとどまらず、体全体へと影響を及ぼし、ひいては健康にまで影響してくるといわれています。膝痛や腰痛の原因が実は足にあったという例も少なくないのです。そして幼年期より長期間にわたり靴を履くことにより起こる弊害も多いのです。

さて、足の問題を解決する方法として、当院ではフットケア外来として足底挿板療法を含めた足のケアを行っています。当院で行っている足底挿板療法とは、「**歩行バランスの改善と足の機能を効率よく発揮させること**」



が、足のトラブルの解決につながるという考えから、靴の中敷に特殊なパッドを装着することにより、歩く（動きの）バランスを改善させるという方法です。より正常な歩行に近づくことで痛みが緩和され、歩きやすくなります。

フットケア外来では足底挿板療法のほかに、靴についての相談や足のサイズ測定、症状に合わせた運動療法の指導も合わせて行っています。現在まで多くの方に利用していただいています。足の悩みを抱えておられる方はぜひ当院整形外来へご相談下さい。

メタボリックシンドローム

医局だより



公立日高病院 内科 田中 慎一郎

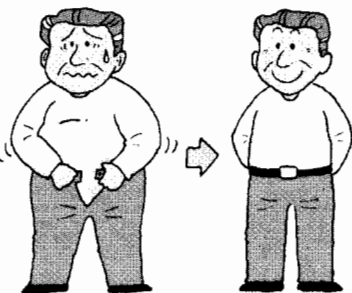
Aさんは、ある大手企業に勤める40歳代半ばすぎの会社員で、朝8時過ぎから夜は10時近くまで働く、いわゆるモーレツ社員でした。自動車通勤で、米、魚、野菜はあまり食べず、帰宅後は脂っこい肉料理を食べながら毎日お酒を飲む人です。また、酒飲みの常で辛いもの好きでした。当然お腹は若い頃と比べて出っ張ってきて、180センチという身長を考慮しても、80キロをかなり超えた体はどう見ても肥満体でした。



先日その彼に何年かぶりに会いました。

久々に夕食をともにしながら彼から聞いた話は次のようなものでした。高血圧で何年か前から医者にもかかっている、降圧剤も飲んでいたということです。そういう状態が続いていたにもかかわらず、生活の方は相変わらず以前と同じで、必要な降圧剤の量も徐々に増えていったそうです。

ある日、彼は医者から血糖が上昇して糖尿病の状態になっていると聞かされました。これはいかん、とその時彼は思ったそうです。あくる日から彼の減量生活が始まりました。その内容は最初に述べたとおりです。毎日多量に飲んでいたアルコールを週1回に減らし、肉類もほとんど食べず、たんぱく質

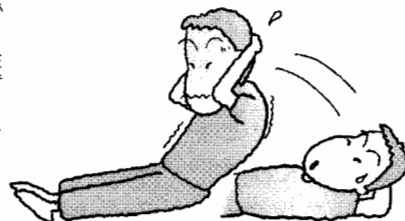


は豆腐くらいしか取らないというのです。そのうえ毎日1時間くらい歩いて、なんと1ヶ月あまりで10キロも減量したというのです。「63キロくらいまで減量するのはとても簡単だったよ。」彼はさらりと言ってのけました。なんと彼は2~3ヶ月で20キロ近くも減量していたのです。私はすかさず聞きました。「きっと、医者から止められただろう。70キロを少し割るくらいで十分だと。」

「そのとおり。」彼は笑いながら答えました。「減量するのはわけなかったけど、ドクターストップがかかっちゃったよ。」

「僕が主治医だったら同じようにストップをかけていただろうな。」私は答えました。

生活を変えるとともに彼の血圧も下降を始め、降圧剤も1つ抜け2つ抜け、ついにいらなくなってしまうそうです。そして先日受けた血液検査では「完璧」と医者に言われたとのことでした。

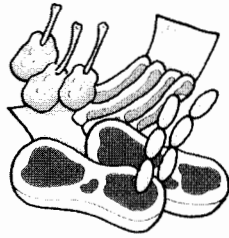


さてここから病気の話に入ります。

彼の病気をメタボリックシンドロームといいます。

1998年に米国のReavenという人がそれまでの病気（危険因子）と考えられていた肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症を併せてひとつの病気として考えることを提唱しました。これら危険因子の重複は偶然ではなく、共通の原因から起こってきているとする考え方です。

脂肪には、皮下にたまる脂肪（皮下脂肪）と内臓のまわりにたまる脂肪（内臓脂肪）の2種類がありますが、メタボリックシンドロームは内臓脂肪の蓄積を特徴とします。肥満（内臓脂肪の蓄積）をきっかけとして心血管系疾患の危険因子（たとえば高血圧、糖尿病など）が重複して出現してくる状態をあらわします。その結果、心筋梗塞、脳卒中になりやすいと言われているのです。



その原因は何か？それは冒頭で述べたように「不適当な生活習慣」です。彼のやり方が全部正しいかどうかはさておいて、その生活習慣を改めることで確かにきれいに正常に戻ってしまったのです。実際彼のような人を私も外来で知っています。そのうち何人かは降圧

剤やインシュリンまで使っていたのが、生活習慣を改善することで不要となった方もありました。

ある日突然気が付くかどうか。そしてそれを実行に移せるかどうかはその人の運命を変えるのです。

話しの最後に彼は言いました。

「実のところ・・・減量がうまくいった本当の原因は他にあるんだ。」

「それは何？」私は聞き返しました。

「夜遅くまで仕事をするのをやめたからさ。その分少し早く帰るようにして、健康に気をつける方に力を注いだおかげかな。」

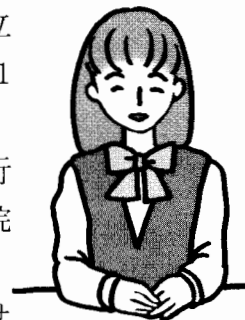
注：彼の例は少しやりすぎです。
生活習慣の改善はあくまで医師の指導に従って常識的な範囲内で行ってください。

眼科診療体制変更のお知らせ 11月から

今後の公立日高病院と公立和田山病院の眼科診療につきまして、公立豊岡病院との協力のうへ推進していく事になりました。そのため、11月1日からの診療体制を下記のとおり変更いたします。

原則として、手術は公立豊岡病院で受けていただきますが、外来で行える小さな手術・検査や手術後の診療は公立日高病院・公立和田山病院のそれぞれで行います。

なお、公立梁瀬病院につきましては、11月からしばらく休診とさせていただきます。患者の皆さまには、ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしく申し上げます。



○公立日高病院

	月	火	水	木	金
午前	診察	予約検査	診察	診察	-
午後	予約検査	-	予約検査	予約検査	-

お問合わせは 0796-42-1611 まで

○公立和田山病院

	月	火	水	木	金
午前	-	診察	-	-	診察
午後	-	診察	-	-	診察

お問合わせは 079-674-2021 まで



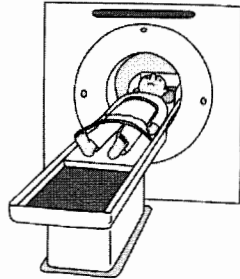
医療の中の放射線

公立梁瀬病院 放射線科

X線発見から現在

レントゲン博士がX線を発見（1895年）してから110年が経過していますが、この間、医療の進歩に伴って医療技術も医療機器も凄まじい速度で高度化されてきました。

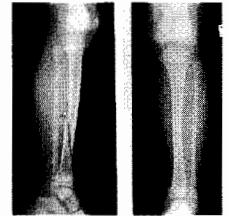
最近では、X線を利用して腫瘍（ガン）の位置、大きさ、周辺組織との関係、また血流がないのはどの血管が細く狭くなっているからかなど、体の中の細部を立体的に写し出すCT装置が開発され、現在多くの医療現場で活躍しています。このように、医療技術の発達とは人体の「診断と治療」の歴史と平行して、今後も歩み進んでいくものと思われま



X線は、人体に当てますと人体内部で吸収（物体に吸い込まれること）されたり、透過（通り抜ける力）する性質があり

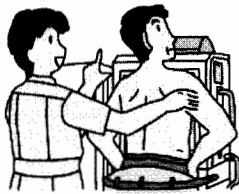
ます。この性質をうまく応用して、フィルム上に白（吸収）と黒（透過）のコントラストをつけることによって画像（一種の影絵と考えて下さい）を作ります。

各医師は、こうして作られた画像を見て読影（影を読んで判断）し、骨折があるかないか、肺炎になっていないかなどを診断しています。



放射線科の仕事は？

みなさんご承知のように、放射線科では五感に全く感じないエネルギー、すなわち放射線（X線）を利用して仕事をしています。放射線技師はそれぞれの患者様にあつた適正な撮影条件で撮影し、体の中の臓器や病気の状態を、各撮影装置やCT装置、また胃透視や大腸検査時に使われるX線テレビ装置など



を使用することによって、診断や治療に役立つ画像（X線フィルム写真・X線CT画像）を医師に提供しています。

画像の作り方

では、画像はどのようにして仕上がってくるのでしょうか？画像の作り方を簡単にお話ししたいと思います。

放射線技師の役目

一方、放射線技師の仕事の中で一番大切なことは、撮影条件（医療被曝線量）を決定する際、患者様の安全性を考え出来るだけ被曝する線量を少なくし、しかも質の高い画像を作ることです。被曝線量の管理は放射線技師の専門分野ですので、各技師は患者様に被曝を与えている自覚を持ち画像を作成しています。

先頃、新聞に掲載されていた「X線やCT検査の放射線は安全？」という記事の中で、医療被曝によってガンになる確率のことやどれだけの量の放射線をあびると危険なのかなど書いてありましたが、このような医療被曝（医療現場で受ける放射線）のことや放射線検査に関する疑問など何かご質問がありましたら医師、又は放射線技師にお気軽にお尋ね下さい。



新任医師紹介

平成16年6月2日から10月1日までに、
新たに職員になりました！！
よろしく願いいたします。



豊岡病院脳外科

はなだ ゆうせい
医長 花田 友成



豊岡病院呼吸器科

やすだ かずひと
医長 安田 和人

退職医師紹介

お世話になりました！

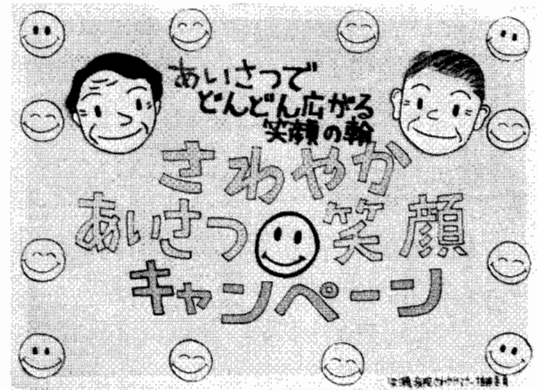


6月30日付 豊岡病院 脳外科 鈴木 壽彦
豊岡病院 消化器科 北岡 修二
7月31日付 豊岡病院 外科 田中 俊郎
8月31日付 日高病院 内科 金 鐘一
9月30日付 豊岡病院 麻酔科 山崎 和雅

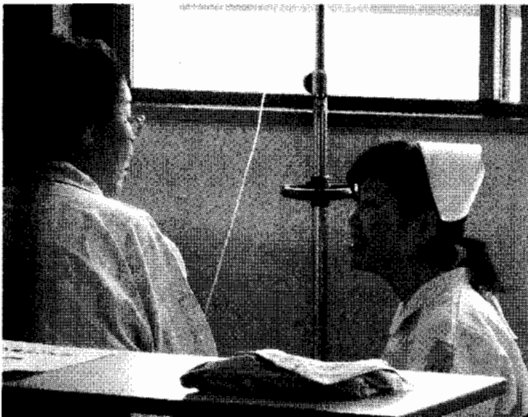
さわやかマナー強化月間継続中！！

公立豊岡病院組合では、6月・7月を「さわやかあいさつ・笑顔キャンペーン」として、9月・10月を「さわやか言葉使いキャンペーン」として、受ける方の立場に立った対応に努め、今後も定期的実施してまいります。

お気づきのことがありましたら、各病院にご意見箱を設置しておりますのでそちらにお寄せください。



公立梁瀬病院廊下にて



公立出石病院病棟にて

～出石病院からひとこと～

当院では、4月よりさわやかマナー推進プロジェクトを実施しています。言葉使い、身だしなみ等、職員としては当然のマナーを目標に掲げていますが、少しでも患者様に温かい療養環境を提供できるよう、職員一同初心に戻って頑張っております。私たちは今一度接遇を見直し、これまで以上に患者様に満足していただける病院づくりを目指しておりますので、よろしく願いいたします。

大規模ゲノムバンクにご協力を

公立梁瀬病院

梁瀬病院は、自治医科大学が行う「21世紀COEプログラム・先端医科学の地域医療への展開」の研究の一環としての「大規模地域ゲノムバンクを用いた生活習慣病の分子遺伝的解析」の研究協力施設となっています。この研究は、全国の僻地・離島などの生活習慣病患者とその対象者からいただく末梢血により、ゲノムDNAを分離し、大規模地域ゲノムバンクを構築することによって、遺伝子マーカーとその疾患との関連及び地域性を調べ、生活習慣病関連遺伝子を明らかにすること、それによる病態解明を目指すものです。

(ご協力に同意していただける方には、5mlの採血と健康アンケート調査表の記入をお願いすることになります。)

新豊岡病院移転新築整備事業について

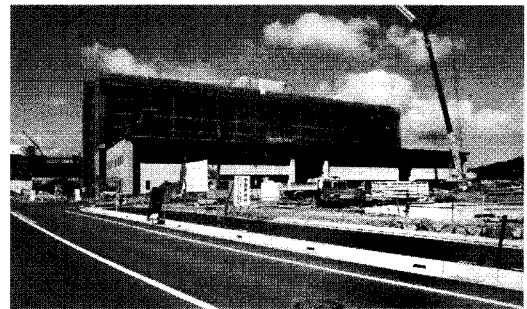
来春 5月1日開院!!

新「公立豊岡病院」を来年5月1日（日）に開院し、この日から入院と救急患者の受入れを新病院で行います。外来診療につきましては、5月2日（月）を休診とさせていただき、連休明けの5月6日（金）から行います。

現在の公立豊岡病院移転整備事業の進捗状況についてお知らせいたします。

病院本体の状況

病院本館、精神科病棟の建設工事は、平成14年9月に着手しました。現在病院本館・精神科病棟は、コンクリート工事などの躯体（クタイ）工事を終えて、内外装の仕上げ工事と、空調や照明などの設備工事を行っています。9月末の進捗率は約70%で、12月末に完成予定です。

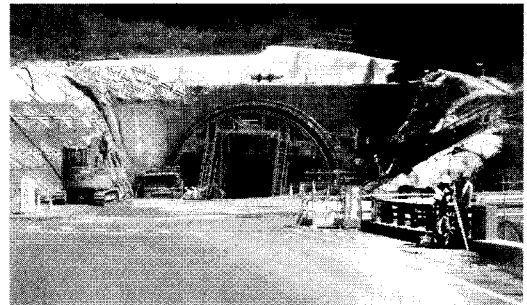


正面玄関側です

付属建物の状況

研修医宿舎、災害指揮棟、職員会館などの付属建物は、現在コンクリート工事をしています。

11月上旬から内装工事に着手し、本体と同じく12月末に完成予定です。



国道426号豊岡バイパストンネルです

その他関連工事の状況

平成16年3月に河川工事、7月に市道豊岡病院線が完成し、国道426号豊岡バイパス工事はトンネル部分が貫通しています。開院時には、市道三坂納屋線からのアクセス道路も開通する予定です。



市道豊岡病院線です

これから、大型医療機器の据付や、総合医療情報システムの開発などを行い、来年2月から新病院での医療トレーニングを実施していきます。

編集後記

いよいよ新豊岡病院の開院日が来春5月に決まりました。昭和30年に建築された現在の外来診療棟（円形）での診療も残すところあとわずかとなり、秋の訪れとともに少し寂しさを感じます。半世紀の永きに亘りお世話になった診療棟に感謝をしつつ、新病院に移転後も、より充実した医療の提供に努めてまいりたいと思います。

《編集委員 Y》